

山梨県総合計画審議会第1回快適やまなし構築部会 会議録

- 1 日 時 令和元年8月7日(水) 午後2時～午後4時
- 2 場 所 ホテル談露館「アンバー」

3 出席者

・ 委員(50音順、敬称略)

飯窪光隆	飯田忠子	岩垂とき葉	内田孝	大山勲
長田満	軽部妙子	川手佳彦	小林央	坂本政彦
清水洋子	辻一幸	細田幸次	堀内直美	丸茂紀彦
水口保子				

・ 県 側

総合政策部長 リニア交通局長 総務部次長 防災局長
県土整備部長 警察本部生活安全部参事官
(事務局) 総合政策部次長 政策企画課長 地域創生・人口対策課長
政策主幹

4 傍聴者等の数 1名

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) 閉会

6 会議に付した議題(全て公開)

- (1) 新たな総合計画の策定について
 - ・山梨県総合計画(素案)の構成と考え方について
- (2) その他

7 議事の概要

- (1) 議題1について、資料により事務局から説明し、委員から意見をいただいた。

(委員)

いただいた資料は一通り目を通してはいるが、私の意見として、前回の総会の内容に沿った意見になっているかどうか分からないが、最終的には、県全体で目指す人口減少抑止への挑戦と地方創生というようなところにたどり着くような意

見になっている。

私も東京で、山梨県人会連合会の総務委員、甲斐市山梨県人会の会長、山梨県人会十士会の会長をさせていただいている関係で、今回は県外からの意見も聞きたいという、長崎知事の意見があったということで呼ばれたと聞いている。私も19歳から東京に出て、今まで約38年、外から山梨をずっと見てきたので、県外在住者としての意見と受け取っていただければ、と思っている。

内容としては、ここに記載した通りで、山梨県の持っている様々な貴重な資産、これらを最大限に生かすことによって、最終的には山梨の活性化に繋がるのではないかということを書かせていただいた。様々な資源が豊富にある、県土面積が小さい山梨県であって、それらが有効に繋がるようなネットワーク（交通ネットワークも含め）を構築し、オール山梨で推進して行けば、自ずと活性化して、また、若年層も取り込むことができるのではないかと考えている。

地域経済が活性化すれば雇用が増える、そうすると若者が定住しやすくなるという、その過程については、やはり地域のコミュニティ、特に外から見ている人間としては、山梨に移住する若者たちがスムーズに溶け込めるような地域のコミュニティをつくる必要があるのではないかと考えている。それについては、特に、出生率、子育てにも絡むが、女性が素直に溶け込んでいけるのかどうなのかが重要であると考えます。伺うところによると、転入してきたとしても、なかなか地域社会に溶け込めなくて、それでまた首都圏に戻ってしまう、期間も1年ぐらいで戻ってしまう、というようなケースもあると聞いている。例えば、千葉で実際に行っている事例が数年前にテレビで紹介されていた。移住して来た人同士でしか分からない悩みとかを気軽に相談できる人がその地域にいて、その移住経験者たちが中心となり、新たな移住者とその地域の地元の人々を結ぶ役割を担ってコミュニティがうまく機能している、という事例を拝見した。やはり、地元の人と、新たに入ってくる人が、素直にコミュニケーションが取れるような施策を推進していったらいいのではないかと考える。いずれにしても、県土面積が小さい山梨県なので、オール山梨で一丸となって、県や市町村が民間を巻き込んでこういった課題に取り組むことが必要だと思う。

それからもう一点、第一期やまなしまち・ひと・しごと創生総合戦略についても、資料を拝見させていただいて意見を書かせていただいた。ポイントとしては、やはり3番、4番にあると思う。結局、若者の転出が今、非常に上回っている段階、特に高校を卒業したら、東京へ出ていく、私も出て行ってしまったが、そういう人間が出るのは仕方ないとしても、それをまた呼び戻すだけの魅力、これを山梨に作っていくことが必要だと考えている。

あとは、先ほどから何回も申し上げているが、山梨は小さい県であるから、やはり優秀な人間をオール山梨で育てて、外で学ぶ、もちろん中で学ぶこともある

と思うが、外で学んだらまた山梨に戻って来てもらい、そして山梨の活性化につなげていただく、という流れがやはり必要だと思っている。

4番目の子育てについては、先ほど申し上げたように、やはり若い女性にとって暮らしやすい、それから悩みがあっても打ち明けられ、解決できるような地域コミュニティをつくるのが、人口増、出生増に繋がるのではないかと考えている。

(委員)

4人の子育てがほぼ終わり、地域で様々な役を経験させていただいている。

その役を通して思うことがあり、色々と書かせていただいた。皆さんのように知識豊富であったり、団体の長であったりとかということは全くなく、庶民レベルの目線で3点ほど提言させていただいた。自助、共助、公助の役割について、空き家対策について、防犯対策について資料の通りである。

プロフェッショナルなことは行政の方々にお任せするとして、またイベントを行うことも一つの手段ではあるが、まず日々の暮らしの中で何かできることはないかと考えてみた。具体例として、一人一役県民運動やあいさつ運動を提案した。そのような日々の運動によりコミュニティづくりがなされ、住民たちで自らの生活が守られ、そしてまた移住された方々にもやさしい環境が作られるのではないのだろうか。

あともう1点書かせていただいたのが、まち・ひと・しごと創生総合戦略における、明日の山梨を担う人材を創生するというところ。我が家でもそうだったが、やはり大学進学を考えると、どうしても県外に出てしまうことが多々ある。そして山梨の大学に進学した場合でも、就職となると、身につけた知識を持って、大きな企業とか魅力ある企業がある県外に出て行ってしまう場合もある。それをどうやってUターンさせるかということをお子とも話をしてみた。やはり魅力ある企業を山梨に誘致する、またはサテライトオフィスとか、今ではテレワークとかもあるが、そのような手段で、なるべくUターンの方向に持っていくことについて書かせていただいた。

また、子連れの家庭が山梨に根付いていただくために様々な企画をされていて、また東京にもそのような場所が設置されているようだが、実際に子連れ家庭が訪れている場所で、移住をPRできるような資料を配布する機会があれば良いのではないかと考えた。

少々別の話になる。ご近所に沖縄在住の方がおられ、北杜市長坂町に住む親の介護のために、沖縄と山梨を行ったり来たりしておられる。その方と沖縄の出生率の高さについて、最近雑談する機会を得た。沖縄はどのようにしてそんなに出生率が高いのかという質問に対して、沖縄は非常に暖かくて住みやすいという環境

もあるが、人の気持ちが温かいということが影響するのではと答えられた。沖縄はどちらかと言うと昭和の時代のような感じだと。3世代4世代で住むことも当たり前、一緒に住まなくても、しっかりと親戚中、仲間意識が強く、だから安心して子育てができるという話をされた。そして若い人たちも県外に一旦出て行くこともあるが、Uターンする数も多い。ということは、根っこの部分で、しっかりコミュニティに繋がっているように感じると言われた。山梨県も非常に自然豊かな県なので、大変魅力があると思う。人間性も豊かで、みんなで仲良く、そして外からいらっしゃった方にも優しくできるような、そんな県づくりができればいいのではと思っている。

(委員)

私は簡単に言えば、美しい県土をつくる、作っていく視点が、全体を見て、かなりなくなってしまって、かなり短期的な、経済的な利便性とかそういう話ばかりになっているというところが非常に気になった。

この部会は快適ということだ。快適というと、山梨の快適は何かと言えば、やはり自然環境、それから美しい景観、田舎と言うと怒られるが、都会にはない暮らしとか、そういうものが資源であって、それを生かすというのがやはり基本だと思っている。それもあってこそ、例えば、産業を誘致するときに、そこで働く人が、Iターンでこちらに来たり、移住定住ということもあるし、それから観光もやはりそういう環境景観を作って、それによって人は魅力を感じて訪れるということになると思っている。

そう考えたときに、この快適やまなしの具体的な施策の中身を見ると、道路、防災、それから長寿命化、森林と、これらはほぼもうやることが決まっていることだと思っている。それから移住定住、それから詐欺被害ということで、やはり、環境、景観、地域を作るということがない。他のところにあるのかと思って見ているが、やはりない。攻めのやまなしの中では、リニアができる、観光客が増える。だからその資源をいかに消費してお金を落としてもらおうかというところがかなり出ているし、それから活躍やまなしのところも、働きやすさとか書いてあるが、そこにも生活の環境とか、地域のコミュニティをどうするかというような総合的な視点がなかったりするところが気になった。

この快適やまなしの戦略の内容を見ると、暮らしを支えるコミュニティの維持、活性化の支援を図り、ハード・ソフト両面にわたり、産業や生活の基盤づくりを進めるとあるが、コミュニティの維持活性化の支援を図る政策って一体何なのか、それがいい。それから、ハード・ソフト両面にわたり、と書いてあるが、ハードはたくさんあるが、ソフトがないというところ。

県の方の資料には、少しまとめたが、要するに、快適な自然環境と都市農村の

快適な環境づくり、景観づくりというものを、やはり少し地道に、環境を作っていくということを是非入れて欲しいと思っている。今回のこの計画は4年計画ということで短期的な目標を立てて、それに向かっていくということがあるが、ただ、やはりここは10年20年先を見据え、今から4年間どこに着手するかということ、是非そういう施策を入れていただければいいかなと思った。

(委員)

私の祖父は山梨で生まれ育ったが、私の父の代からずっと東京で過ごしていて、私も東京生まれの東京育ちである。先祖のご縁で山梨県人会の仕事とか、様々させていただいている関係で、今回、長崎知事からの御指名で、東京の人間として、山梨と御縁がある東京の人間として山梨をどう見るかという観点で、今回、委員に加えさせていただいたと認識している。

そういう観点から、今回の総合計画の快適部会に少し御意見を申し上げさせていただくと、私も今回初めて入ったが、快適部会という名前と違い、政策を見るとインフラ関係というか、そういう話が多いのかなというふうに感じた。

そういう観点からこの山梨を見ると、一つはまず、山梨県は地理的に東京の隣りということで、非常に有利な条件を備えている。例えば、私は世田谷に住んでいるが、甲府まで、先ほど見たら、ちょうど110キロぐらい。普通に車で来ると1時間少しぐらいで来られる。この距離というのは、私はアメリカに4、5年住んでいたが、アメリカでは普通に通勤できる距離である。そんなに遠くないと。ただ、日本の場合、特に中央道を通って山梨に行くとなると、なかなか通うというのは難しいというのが今までの状況だったのかなと思っている。ただ今後そういう環境は変わってくるのではないかと考えていて、先ほど話もあったが、今、働き方改革で、テレワークというのがだいぶ進んで、東京ではこの7月8月に、テレワークデイズということで、東京都からの指示によってこの1ヶ月間、なるべくテレワークをするようにということで、各社の人員、そういうシフトを組んで、またインフラを整えて、家でも仕事ができるようにという環境が、かなりのスピードで進んできている。そういう意味では、山梨でテレワークができる環境を整えることによって山梨での居住者を増やして、必要に応じて東京に出勤するという環境を作るというのは十分可能なのかなと。特にリニアが2027年に開通するとなれば、ある程度VIPな人間になってくれば、必要があればすぐに東京に戻れるという非常に条件として整った環境ができるのではないのか、という意味で、テレワーク環境拠点としては、山梨は十分あり得るのではないかと考えている。

もう一つは、私ども保険会社なので、高齢の方と話すことも多いが、やはり高齢者のセカンドライフとしての山梨は非常に魅力的で、今もやっているのか分

からないが、空き家を探す支援、東京で引退された方が山梨に移り住みたいというときに、空き家を斡旋してくれるようなことをやっていたと思う。それを私が話すと、結構興味を示される方が多かったが、なかなか情報提供のインフラが整っていない。興味はあるが移住するとなるとなかなか腰の重い話だから、決断させるのは大変である。そういうところの、もう少し決断する後押しができる仕組みというのがあれば、更に、居住人口を増やすことができるのかなというふうに思っている。

もう一つの観点を申し上げると、山梨は近くて便利だが、先ほど申し上げたように中央道と交通機関のボトルネックがあるというのが問題かと感じている。皆さん御記憶に新しいと思うが、4、5年前の2月に雪が降り、中央道が通れなくなったり、その前は確かトンネルが崩落して、そのせいで途端に陸の孤島ようになってしまうと、それが東京の人間からすると非常に距離を感じさせる。本来であればそれほど遠くないが、何かあったら帰って来られないのではないかと、渋滞で何倍も時間かかってしまうとか、そういうことは非常に意識的な距離を作っているのではないかと感じられる。そういうところは、これは国とも絡んだ政策になってくると思うが、リニアの開通も含めて、あと中部横断道など、そういうことも整備していくことによって、心理的な距離というのを縮めるといようなことを、県を挙げてアピールしていくというのが大切なのではないかなと思った。

少し雑ばくな意見で、地域に根差した話ではなくて恐縮であるが、東京から見た意見ということで申し上げさせていただいた。

(委員)

近年の AI・機械の発達は素晴らしく、便利な社会となったが、その分「人間力」人として生きる力が不足しているのではないか。今回の計画は、地域の豊かさと人間力の向上に尽きる。

犯罪件数は近年減っているにも関わらず、重大犯罪が大幅に増えている。SNSを始めとする情報社会により、人と人との繋がりの減少、地域で支えあう意識の減少により、希薄な社会・世の中となり重大犯罪が増加しているのではないか。様々なものが多様化する社会だが、障害者や高齢者の豊かさも求められている。

基幹道路等の整備に始まり、生活に直結する身近な部分での整備も求められている。交通網については、この会議でも語り合っていきたい。地域の身近な整備にも、目を向けて頂きたい。これらの整備は、諸外国から来る観光客の誘致にも役立つと考える。こうした身近で細かな環境整備が、必ずや人の役・地域の役に立つと考える。一方、様々な整備も大切ではあるが、自然環境とのバランスも大切である。

本計画の推進については、長崎知事の考える「快適やまなし構築部会」をスピード感をもって行政と地域・学校が一体となって取り組んでいくことを望む。これらの実現に向けては、机上での話し合いは、資料も大切であるが、「地域の声を拾い、地域に寄り添う」絆で繋がる安全で安心な「山梨の明日を切り開く」という考えのもと進めて頂きたい。

高度経済成長を果たした日本・山梨は世界に誇れるものだと思っているが、人としてどう生きるかという人間力。これを大人社会の中で、子どもを育て、育み、夢がえがける社会の構築を目指していくことを望む。

(委員)

私はこれまで教育関係の仕事に携わり、総合計画審議会でも教育分野の部会長を仰せつかったりしてきたので、教育を根底に考えてみたい。

山梨県は、自然が美しく、水も美しい。しかし、出生率が低く少子化も進み、人口減はやむを得ない状況に陥っている。先程、地域創生・人口対策課長の話にもあったが、今後40年後には、山梨県の人口は、50万人になり、日本の人口1億1千万が8,500万人になってしまうという。

快適生活を求めるために、女性が子供を育てやすい環境を作ることが大切だと思う。統計上、山梨県には「待機児童」がいないと聞いている。おじいちゃん・おばあちゃんの協力が大きいと思うが、女性(母親)の努力は多大である。もう少し男性(父親)の育児への関わりが必要ではないか。

働き方改革が進展していく中、育児休暇制度を採り入れる企業も増えてきているが、快適な生活を求める上では、今後解決すべき問題は数多く残されているように思う。

高等学校を卒業すると、大学進学や就職を理由に東京等を目指し、山梨県を離れていく子どもたちが多。全国でもその割合は2～3番目だという。山梨を離れ、知識や技能を身に着けた子供たちは、皆山梨に戻り、たくましく生きてくれるのだろうか？

県民の健康保持や快適な生活を願い、医療の充実を図ろうと山梨医科大学を設置し、高等学校に理数科が設けられたが、現状はいかがなものか。優秀な学生達は、東大や県外の医科大学への進学を目指しているように思える。大学を卒業した学生を山梨に戻すという戦略もとられたが、個人情報の問題があったりして、上手くいかない。

本部会には、経営者の方々や行政を担当される首長さんもおいでになる。県と市町村、企業に携わる皆さんは、組織的な、また、強力な方策を練らないと困難な状況にあることを御理解いただきたい。

私の地元南アルプス市に、「コーセー」という化粧品会社が誘致されることに

なった。広大な土地に最新の設備を持つ企業ということで、人や仕事も増えると地元では大きな期待が寄せられている。県外に出た子供たちを呼び戻すためにも、『企業誘致』を積極的に考えることが大切である。

「選挙」にふれてみると、18歳以上が選挙権を得て、高校3年生も対象となったが、今回の参議院選挙の投票率は、とても低かった。学校教育として、国づくりの仕組みや政治の在り方、税金など様々な授業が実施されてはいるが、残念な結果となった。私は、この快適生活やまなし構築部会では、「まちおこし」・「まちづくり」にも取り組む必要があると思う。

かつて、知事との懇話会の折、私学教育に携わる立場で、山梨県についていろいろお話をさせていただいたが、「教育の力によって山梨の文化を向上させる必要」を強調した記憶がある。偏差値重視の教育に偏ることなく『自分』を『他人』を『故郷』を、そして『国』や『世界』を大切にする心を育てる教育が大切だと考えたからである。空き家の問題にしても、住む人を待つだけよりも、行政を中心に山梨県民全体で心をひとつにして、住みやすい環境を整備し、都会の人達に積極的に働きかけることが必要である。

(委員)

私は春日地区で、消防活動を20数年間、今現在もやらせていただいている。今まで消防活動の中では、火災のことを考えていたが、最近は災害ということがすごくあちこちで問題になってきているということで、少しその辺を取り上げてみたい。

山梨県は高齢者が多いし、個人の、一人の生活が多い。甲府はそれほど大きな災害は今のところないが、同じ山梨県でも周りの方は大きな災害が起きているようである。それを考え、少しお年寄りの方と話をした時に、「私はもう、ここでいい。何があってもいい。」と言われる。若い人たちの話を聞き入れなくて、変な話だけど、何かあってもそれでいいかという方がいることに気がついた。

それに対して、私達が小さいときには、近所の人たちとのコミュニケーションというか、おじちゃん、おばちゃんとか、話をしたり、色々な祭りなどで、コミュニケーションが取れていたが、最近はもうほとんどそういうこともないようである。しかし、山梨県全体では、様々な大きなお祭りなどで、コミュニティなんかも作っている。まだまだ御近所、おじいちゃん、おばあちゃんが仲良くできるようなコミュニティがあったらいいなと思っている。その辺は考えていただきたい。

あとここにも書いたが、確かにマップが1冊の本になっていて、配られてはいる、あれをいちいち全部ひっくり返して見たりしている人は、あまりいないと思う。災害が起きたときに、色々準備する物が売っているが、例えば、準備してあ

っても、しまっておくとか、そういうことが主なので、いざという時になかなか持ち出すことができない。もう少し簡単な、1枚のペラペラな紙でいいので、何かあった時に、地震だっていう時にパッと目について、それに従って逃げられるというものがあればいいかなと思ひ、そのあたりを記載した。

とにかく、県においても、もし二次災害が起きた時に、自分たちの意思だけでなく、何か起きて大きな話題になったことはたくさんあるようなので、その辺をもう少し、地域との連携を図って進められれば良いと思ひている。

(委員)

元々は長野県出身で、移住者である。看護の学校からこちらに来て、寮に住んで、そのまま移住して20年ぐらい経つ。なので、移住者としての立場としては、実家の方は昔ながらのお隣さんとのコミュニティがあったり、寮の時にはコミュニティがあったりしたが、移住者として、少し若い世代でアパートに来た時は、隣に誰が住んでいるかもやはり分からないとか、そういうことがあった。災害時はもちろんだが、隣同士も繋がっていないというところもある。思ひながら、寮の時にはすごくコミュニティが活発だったので、寮のような集合住宅とか、あとアパート経営者の方の協力を得たりして、個で地域と繋がるというのはなかなか、出て行くというのは難しかったりするんで、個から大きな集団っていうところでの働きかけとか、そこの活用ができれば良いと思ひた。

あとは、山梨県は無尽があるが、私の勤務する病院の中には、県外からこちらに移住して来ている人達でつくるコミュニティがある。発足してから、30名ぐらいに増え、知っている人がどんどん新しく呼んでくるという形で大きくして行って、そこでみんなを支援しながら繋がっていくというのをしていたりする。少し小さいところではあるが、そういう活動も大事かなと思ひた。

あとは、出生率などの話が出たりしますが、私も一応、産める世代として、私の職場でも結構あるが、産みたくても産めない。やはり最近是不妊が多かったりして、うちの病院でも不妊外来があったりするんで、実際にこの出生率の低下が、本当に産みたくても産めないとか、子育ての環境でそこが下がっているのかというのは、勉強不足で申し訳ないが、もし分析されているのであれば、少し分析内容とかを見たいと思ひた。

(委員)

私の出身母体は、なでしこガーディアンである。もともと、地域にどっぷり浸かっている人間で、今住んでいる所では民生委員をやらせていただいて、今三期になる。あとは、消防団をやっていたり、地域のお年寄りたちに、生きていてよかった、住んでよかったと思ひてもらえる地域にしたいと思ひて活動している。

私の住んでいる地域には県立大学があり、県立大学の福祉の関係の先生と一緒に、地域の自治会と提携して、一緒に持続可能な地域社会のコミュニティを作ろうという機運が高まっていて、2回ぐらい会議を開き、どのように住みよい地域にしていこうかという話をしている。だから私も民生委員として、あと食生活改善推進委員の代表として、そこに入って一緒に考えるが、なかなか進まない状況である。

でも、学生さんたち、県立大学の学生とも結構親しくなり、私達の地区に来て、一人暮らしの男性が少ないから、そういう人達をどうしたらいいか、実態調査をしたいとか、様々な研究テーマを持ってきて、そこへ行って一緒になって、そういう方がどのように毎日生活しているかということ調査したりしている。

そのほか、地域に大きなお祭りがあって、御神輿の担ぎ手が少ない時などは県立大学の方とか、そして外国の、ユニタスの学生さんがバーッと来て、御神輿を担いだり、私たちのする踊りにみんな入ってくれて、若者がいっぱい入ってきて一緒に音頭を踊ったりする。こういうのもいいなと思い、住みやすいところになりたいと思っている。

今回の仕事、まちづくり、地域コミュニティの活性化ということに当てはまるかどうか分からないが、どのようにしたら、一つ一つ、自分たちが住んでいるところ、盛り上がって行って、一つの甲府市になって山梨県になるというか、下から持ち上げていく、そういうものにしたいなと、日々取り組んでいる。

(委員)

私は80歳という年である。思えば、山梨には大学を出て以降10年間いて、その後は、東京で今日まで生活している人間である。

特別に故郷思いが長けているわけではないが、好きな一人である。そして、これまで長く、東京における山梨県人会連合会並びに在京山梨政経懇話会という両団体の副会長をしており、うち県人会連合会においては、とりわけ山梨県に關係の深いふるさと納税推進委員長や事業委員長をつとめ、更に今年は連合会創立70周年にあたることから、その記念事業の1つとして「連合会70年史ものがたり」を発刊、記念総会大会時三千人近い参加者全員に配布したが、これの政策の責任者である、編集委員長もつとめてきた。

他方、政経懇話会においては、二年先の2021年にちょうど節目の50周年にあたることから、その記念事業の実行委員長の役目拝命を受け、目下準備に入ったところである。

私が今回与えられたテーマに関しては、配布された資料に掲載してある「コミュニティバス（地域巡回バス）の運行制度の確立に関する提言であるが、これまで各人の意見を聞かせて頂くと、皆それぞれに観点は多少の相違こそあれ、いず

れも故郷思いの発言が多く、自ら心にしみて聞かせていただいた。

以上を踏まえて考えてみると、政策提言に関しては、山梨県民も東京在住者も、そんなに大きく変わるものではない。誰もが感じていることではあるが、私は常々思うのは、山梨県は東京（首都圏）からみて、距離的には100キロ圏内に入る地の利にあり、たとえ小仏・笹子・御坂と言った大きな峠があるとはいえ、それを勝る緑が多く、水、空気の良さ、そのうえに山々を背にした風光明媚な素晴らしい環境（風土）の地であり、政策、工夫の如何によっては大きく発展する素地はあると考えている。

こうしたことから、山梨県はもう一度勇気を持って、人・モノ・金の集結地である東京（首都圏）を色々な戦略をもって取り込むことが肝心であり、それが山梨県発展の根源と考える。

こうした観点からすると、近時、長崎知事が誕生したこともあってか、山梨県東京事務所に知事の執務席が設けられ、トップ自らが首都圏の多くの人々と意見交換する機会が設営されたことは、一歩前進と思え、敬意を表したい。

他方、誰かが発言したことであるが、県が積極性を持って27の市町村とのコミュニケーションの強化に努め、市町村との連携を推進し、併せ県民参加と自己責任認識の普及にも配慮し、結果県の打ち出す諸政策が効率よく現実化することを期待したい。

また、山梨への移住者の増強策として、他の委員がいわれたことであるが、県外からこちらに移住して来ている人達でつくるコミュニティを設置し、住んでみて良かった点、不便を感じている点等意見交換しているとのことであるが、今後県に移住者を増やすうえでは、大変良いことであり、推進のための参考事例として活用してほしい。山梨県人の組織には北海道から九州まで、多くの地域に県人会が存在しているので、それら地方にある県人会にも県の政策の推進の役目を果たしてもらおうべく呼びかけてほしい。

更に、他の委員が提言している県内町会、自治会活動にもう少し県としても力を注いで欲しいというニュアンスのことが書いてあるが、このことに関しては、東京23区においても地域の安定的発展策並びに住民サービスの強化のため、今や中心的政策のひとつとなっており、特に品川区、大田区等では、区長初の公約の一つに扱われているのが現状である。

いまだ色々と発意したいことはあるが、時間との関係から以上をもって終わりとす。

おわりに、今回策定された山梨県の各種政策が、県の指導性と27市町村との連携、同時に県民の相対的理解により、堅実かつ積極的に成果の挙がることを期待する。

(委員)

私は山梨県防犯協会の会長という形で推薦を受けて、この役を受けさせていただいている。そうしてもう一つ、経済団体では、山梨県経営者協会の会長、親が日本経団連という組織である。という中で、このテーマについて若干申し上げたいと思っている。

まず一番が、知事が作られたこの基本方針というか基本理念、これをしっかりと理解し、内容をもう一步進めたい。これは素晴らしい理念である。理念というのは企業でいう戦略であって、いわゆる基本的な方向づけということだから、細かいことは要らない。この戦略は何回も発言されているし、ここに出ている目指すべき20年後の2040年に向けて、「県民一人ひとりが豊かさを実感できる山梨を作ろう」ということを、まずしっかり確認をし、内容について理解して、県の幹部の方々とともに踏み込んでいきたい。例えば、豊かさとは何かということだが、これは皆さんのお手元にある、県からいただいたアンケート調査の中で、豊かさとは何だろうかというものがある。望んでいるものが、「健康な心身というのが豊かさの一番」というアンケート調査結果が出ている。

そして、あとはやはり、この交通関連のことが出ている。県内の移動が、これは高齢化と関連があるのだろうが、非常に不便だということである。

だから、この豊かさとは何かということの踏み込みを、私どももそうだが、県民の皆様とともにしていきたい。4番目ぐらいに経済の豊かさというのが出ていた。私はもう少し上に来るのかなと思ったけど、それは4番目であった。このアンケートを定点観測アンケートとして、年に一度ぐらいしていただいて、まず初めの第1コーナーの4年間、状況の豊かさ、それから行政に何を望むのかという同じ調査が次に出ていたけど、そこで望んでいるのは、やはり交通、県内の交通事情の便利さ。まさにその国家的なプロジェクトであるリニア中央新幹線が、2027年を目安に進んでいる中で、中部横断道とか山梨環状線とか、こういう道路との絡みの中で、電車あるいはバス等の交通機関を充実して欲しいというのが行政に望む一番初めに出ていたのに、私も色々な課題があるのかなと思いつながりを見させていただいた。

当部会のテーマは、山梨県民と訪れる人々に快適な環境（豊かさ）を提供すること。それは便利な交通ネットワークの構築と防災・防犯に優れた活性化されたコミュニティづくりを中心として進めていくことを確認しておく。

そして、この豊かさをとの展開の中で、少し時間の関係で詳しく説明できないが、今私が所属している経団連というところは、地方の経営者協会に向けて「Society 5.0 for SDGs」をテーマとして、基本方針にして今年を進めている。Society 5.0は皆さんも御存知だと思うので説明をカットするが、いわゆるデジタル社会の中で、AIとかロボットだとかIoTだとかさ

らに進んでいるが、それを製造販売、あるいはオフィスの事務効率で積極的に活動しながら、しかし、このSDGsの17の項目と連携を取って、人間中心の、やはり先ほど人間性という話が何人かここで出たけど、やはり人間中心の社会を作っていこうと、その目安を2030年に一つの区切りにしようということで、最近、例えば日本経済新聞などをお読みになっている方は、かなりこの17のキーワードを使った広告だとか、合わせてやはり行政がかなり取り上げている。この間、私も内閣府地方創生本部の稲山さんという方のお話を経団連の40人ぐらいでうかがったが、都道府県と市町村1,741の行政体が、全てこの地方創生に5年間取り組んできた。そして今年が最終年度で、第二次計画を今年度中に作りたいということである。是非このSociety 5.0という表現は、長崎知事さんのこの総合計画の中にも出ているし、それから多くの県で、国連総会で採択されたSDGsに取り組んでいるのだが、表に出しているところがまだ少ない。この施策を表に出して、多種多様なこの社会的な課題の解決のポイントとして頂きたいと感じている。

結びとして、私は現在の「産業と生活の基盤づくり」として、

- ① 中小企業と県内事業所の89パーセントを占めている小規模事業者の活性化
 - ② 女性の活躍できる環境づくり
 - ③ 「まち・ひと・しごとの地方創生」のさらなる深化
- であると感じている。部会員皆様の御協力をよろしく願いたい。

(委員)

私、宅建協会の会長をしているので、不動産という立場から少し意見を言わせていただきたいと思います。

皆さん、色々な委員さんの意見を聞かせていただいて大変参考になった。山梨を見ているとやはり自然が豊かということとそれから都心から近いということ。それから外から見ると移住先として、一時は長野と山梨で1、2を争っていたという、移住先として非常に人気がある。かたや、この前発表があったように、空き家率では山梨が全国でワースト1位。よくこの中のデータを見ると、二次住宅、これ山梨は、八ヶ岳周辺と富士山の周辺に約1万9千の別荘がある。その中の空き家もカウントされているので、それを除くと6位かなというデータが出ているが、そういうものも、これから全国的にもそうだが、山梨の一つの活性化としてはやはりこの空き家問題をどういうふうにしていくかというのはやはり一つの大きい課題だと思っている。宅建協会の方も県に御協力いただきまして、オール山梨空き家セミナーとか、空き家を持っている方がどこへ相談していいかわからないということで、建築士とか測量士とか行政書士とか弁護士の方、我々も

集まって何か所かで相談会をさせていただいたりしている。

それから、安心して買っていただけるように、資格のある方に調査していただくというインスペクションとか、そういうことをさせていただいている。

そういうことで移住とか、色々なことを考えていくとこの空き家対策、いかにしていくかということが我々不動産からするとキーワードかなと思っている。先ほどの委員の方からもお話があったが、老後をどこで過ごそうかなとか、いや、ここは近いから、日帰りができるからということで二地域居住というのも一つのキーワードだ。この席のどなたか委員さんも言われた、人口がと言うんだけど、山梨の自然とか利便性とか、それからそういうものを味わっていただく二地域居住というキーワードも一つ考えてみてはいかがかなと。私は富士吉田で営んでいて、別荘とかそういうものを、若い人、若い家族の方そういう方、住所は移動しないが、山梨の自然とかそういうものを楽しんでいただいているということは、これも一つの山梨のアイデンティティとしてはいいことかなと思っている。だから、そういうことも何かうまくカウントできる方法もいいかなと、この地域としては、都心から近い、自然が豊かということでは、そんなこともいいかなと。あとは空き家を、私は富士吉田の方だが、空き家の店舗とかそういうのを利用して、テレワークやそれからコワーキング。都内に住んでいる方が、山梨に来て、そこでオフィスを借りて、少しやってみようとか。けどこの二地域居住というのは、富士吉田の方でも昔の歓楽街のところも、富士吉田市の若者を応援する事業で、そこの一つの飲食の街を作ったりということもあるので、キーワードとしてやはりこの若者をいかに巻き込んでいくか、そして地元の若者プラス都会の若者、そういうものを巻き込んでやっていくと、これが移住に繋がったり、地域の活性化に繋がったり、そして空き家とか空き店舗の解消になってくということがあり、実際に成功しつつある例もあるので、そういうことも考えていったらいいかなと思っている。

県の方でも、移住の方も、単に移住ではなくて、若い人に移住していただくということでサテライトオフィスを東京のビルの方でやられているということもあるので、そんなこともいいかなと思っている。

それからもう一つは、自然が豊かということは、やはり守っている自然があるからなので、何でも開発ということではなく、自然をいかに守っていくかということである。今の流れとしては、キャンプとかグランピングとか、そういうのもある。そういう中で、あるお客さんから、キャンプ場を作りたいが、できるだけ自然を壊さない、駐車場を作らないと。だから、利用者は自分のキャンプをするスペースに行くには栈橋を渡ってくるような。そして、自然の開発に当たっては、そういうことも特化してやっていきたいという。これは開発しているところではできないので、それを山梨のこういう自然を生かすということも一つかなと

思っている。

あとは、先ほど色々な方から意見があるが、リニア駅ができてリニアが開通したらどういうふうにしていくか、ということであるが、山梨も、富士の国やまなしということで、今もうたっているのも、私としては、リニアの駅名も富士山やまなし駅とか、甲府駅とか甲斐の駅とか、富士山をやはり一つ作ることによって、インバウンドの方も来られるし、そういうインバウンドの方も、富士五湖とか八ヶ岳だけでなく、この地域にも様々経済効果もあるのではないかなということでもリニアの駅は、富士山何々駅というのが自分はいいいのではないかなと思っ

ている。そう言いながらも、やはり、自然が豊か、自然が豊かと言っているのも、自然を守るということはやっぱり大前提で考えていかなきゃならないのではないかなと思っ

(委員)

私は、本職は早川町の町長をしているが、今回の委員が、自治体の長としてではなく、山梨県の森林協会の会長をさせてもらっているものだから、その部分から委員に選んでいただいたのであるのも、私がしゃべることが自治体の言葉では申し訳ないと思っ

ている。前は、一つよろしくお願ひしたい。前回の会議には出られなかったが、とりあえず一通り、抽象的ではあるが、話をさせていた

きたいと思っ

ている。私は、今回の山梨県の総合計画というのは、本当に山梨の将来を決するよう

な大変な時期の総合計画づくりだと思っ

ている。それは、まず変化が押し寄せてくるということだ。ここにもあるように、2030年を一つの目標にし、2040年、このときは我々生きていないが、リニアが山梨を通るということは、これまでもな

かったことだし、これからの山梨県の展開が、このことによって、この長期計画を

しっかり作ることによって、山梨県の将来が前進するか後退するかという、こんな

時期の長期計画づくりだけに、私も一委員としてしっかりやらせて

いた

きたいということだ。それはどういうことかと言うと、山梨県が関東圏にあっ

て、東京に近い、もっと有利な何か展開ができないかと言っ

ながら、東京におられる委員の皆様

に頑張っ

ていただ

いているが、少なくとも東京圏から見て、山梨は相手に

されてい

ない。私は、率直に言っ

てそのことを痛切に感

じる。

我々は東京に近いとか、東京の隣とか言っ

ながら、山梨をと

いうことは、今の東京から見て、山梨というの

は全く相手に

されてい

ないとい

うことを私

は、こ

うい

う立

場で見

せてもら

っている。山梨の

将来とい

うのは、リ

ニアが

できた

とき

に、リ

ニアを

一つの

ステ

ップと

しなが

ら、東

京圏も

関西

圏も、

名古

屋、

大阪

も一

つの

圏域

の中

で、

経済

圏の中

で、

山梨

が考

えら

れて

い

ると

い

う

そ

うい

う

時

代

が、

今

来

ようとしているだけに、しっかりした長期計画を作っていくべきだということ考えている。

そこで思うことは、そういう転換期の中でこの計画を作っていくわけだが、今までも計画づくりの中へ参画させていただいて思うことは、県の皆さんが単年度で目標を盛り過ぎている。大きな目標を失いながら、数字だけ、今年は何パーセント伸びた、今年は何パーセント減った、というような目標だけを単年度で追い求めている計画づくりというものは、私はいかがなものかということをおもっている。4年なら4年という一つの節目を作りながら、今の計画を作るのであれば、1年ごとに考えず、それは政策の面で表していくことであって、長期計画の面であまりそれを追い求めて行くと、皆さんが指揮者としてそれぞれの現場へ指揮をしにくくなると思っている。その辺は考えていただきたい。

国では、総合計画を、まち・ひと・しごと総合戦略を立てると言っているが、それをこの県政の総合計画との関連性をどういうふうにこの中で位置付けてくかというの、私は大事だと思っている。県の総合計画は総合計画、国が言うまち・ひと・しごとは別の計画だなんていう、これでは二重構造になってしまうということをおもっている中で、その関連性をしっかり位置付けて行けば、最後は楽になるのではないかなということをおもっている。

それから、我々の部会は快適部会。いい言葉だと思っている。快適部会。それでは快適とは何だということになった時に、やはり安全性だとか、安心して暮らせることであるだとか、あるいは、先ほど話のあった、それぞれの地域の豊かさだとか、あるいは生活の豊かさだとか、こういうことが快適に繋がっているのではないか。それをハードとソフトに分けて、はっきりと県民に訴えながら、ハードの面は金がかかる、ソフトの面はゆるやかな面で人間が心の中で書き込む話である。だからその快適性をしっかりと、ソフト、ハードの中で位置付けていることが必要なことだと思っているし、ハードの部分は県がしっかりとおさえながら、ソフトの部分は市町村に仕事を預けることだ。地域の豊かさを作ろうということは、県がやる仕事ではない。皆さんがやる仕事ではない。それぞれの自治体が、足下でやる仕事が、このソフトに繋がってくる手法であるので、その辺の指導は皆さんが自治体と一緒にあって、この計画を進めて行かなかったら、総合計画自体が宙に浮いてしまう。今までの計画を見ていくと、絵に描いた餅で終わっていて、地元は何もやっていないような形が、総合計画の今までの姿ではなかったらどうか。それを私はつくづく思っている。

快適を求めることは素晴らしいことだと思っている。山梨の環境から含めて素晴らしいことだ。可能性があるということであれば、山梨県が健康寿命一番ではないか。これはすぐ快適性の中から出てくる話ではないが。誇りを持って私はいいと思う。だからそういう点もしっかりと計画の中で押さえながら進める

ことが大事ではないかということをおっしゃっていただきたいなと思っている。

もう一点だけおっしゃっていただく。山梨県の人口が減るといっているが、人口が減ることがどうこうではなく、これは山梨の責任ではない、日本の政策の責任である。それでも我々はやらなければならない。地域を守らなければならない。そういう根本的なことを考えたときに、もっと人口が減っても、豊かな、快適安心安全、地域の豊かさ、人間性の豊かさをこの中で育てていくことが、人口が増える原点になっていくような気がする。

余所の例を一つだけ。島根県の話である。島根や鳥取は、様々な政治家が出ているけど大変である。島根県の県民の歌には、「90万県民」という歌詞があるそうだ。今何人かと言うと、60万人しかいない。県民歌が歌えないという。県民歌が、「90万の県民」から始まったというのに、今、60万人しかいないというので、90万の県民歌が歌えない。こういうことを言われたら、山梨なんかまだ頑張っているほうである。私はそんなふうに感じているわけだが、こういうことを根本から、長期計画を作るという御苦勞と同時に、これをどうやって県民に浸透していくか、それは県の皆さんの企画部門だけではなくて、総合的にこれに対応しながら、市町村も巻き込んで、仕事と暮らしを打ち立てていくことをしていけば、山梨県自体が誇れる県になっていくのではないかと期待します。一番厳しい早川町から、ひとつよろしくお願いします。

(委員)

私は、基本的な考え方として、やはり快適に安心して地域で生活するには、まず、地域の歴史、それから価値、現状、また制度というものも、全てまずは知ってから動くべきではないかと。その現状を把握したあとに、色々なものにつなげる、機関とか、それから制度、人をつなげていくことがとても大事ではないかと思っている。

例えば、地域を知るといっても、ただ勉強するだけではなく、楽しみながらやるのがいいのかなと思った。南アルプス市でもマウンテンバイクのコースを作るのに、自由につくるために、土地を持っている人たちが関与できないということで、山を自分たちで切り開いてコースを作る、そういうNPOがある。または、様々なツアーでやっているが、東海道五十三次を歩くツアーが全国で流行っている。山梨全体も同様に歩いてもらうようなコースを作ってもいいのではないかと。その時に、自分の地域だけではなく、どうせなら今、山梨にいる中高生の人達と一緒に入ってもらって計画をするのも一つであるし、また県外に行った大学生たちに自分たちの地域の価値を分かってもらうために一緒に計画に入っていて、色々なイベントを企画するのもいいのではないかなと思っている。今では大企業も副業OKになっている。首都圏では、週末に自分たち

でイベントを企画して、そして自分たちの参加費くらいしか儲けはないが、赤字にならないよう、色々な小さい会が立ち上がっている。そういう人たちに、山梨の地域資源をうまく活用してくれるイベントを考えていただいて、首都圏と山梨が繋がる何かをしていくと、とても楽しくできるのではないかなというふうに思っている。

また、移住定住の方は、一応、システムがあると思っている。そのシステムは例えば、県に行ってこんなところがあるのではないかと思っても、それで終わってしまう。地域に行った時も、空き家はここにあるよと、またそこで終わってしまう。ならばそこで仕事は何がある、例えば農業したいのであれば、農家さんにつなげていただくとか、JAにつなげていただく、また地域で活躍しているNPOとか、市民活動の人達につなげていく、そういうシステムが繋がっていると、バラバラある資源が一つになる。先ほども何回か出ていたが、オール山梨という形で支援ができていると、よりスムーズに移住者が地域コミュニティに入って行けるようになるかなというふうに思っている。

私は、南アルプス市の方で在宅子育てをしている親子の支援というのを常設でやっているが、そこで見ていると、一人でもお子様がいる人達は、やはり二人三人欲しいというふうになる。その時に、先ほど少し話に出たが、本当に未婚者も含めて全ての数字で、実際にお子さんがある人達がどのくらいの数字かということ。お子さんが生まれたあと、一番やはり怖いのは、せつかく授かった命が虐待で亡くなってしまうことなので、そのフォローも必要だし、反対に、これからお子様が欲しいという時、例えば35とか40ぐらいで、仕事もそろそろ、少し一段落したから、子供が欲しいといざ思っても、色々な面、体の関係でできないということが多い。それを事前にもっと知っていれば、若い頃にもっとできたなということもあるので、もう少し中高生からその話を伝えてくれるような制度があると、少子化も少し対策ができるのではないかなと思っている。

(委員)

今、様々話を聞いていて、快適というのは非常に難しい。精神的な快適なのか物資的な快適なのか、どちらになるか少し私分からないが、先ほどの皆様の話を聞いていて感じたこととしては、やはり山梨県は年々人口が減っていくけど、人口を少しでも同レベルぐらいに持っていかなければいけないのかなと。それと同時に先ほども言ったように子供たちが帰ってこないこと。私も子供が3人で、女、女、男と三人の子供がいる。女の子たちには、東京の大学行って帰ってくるなど、東京で就職しろと、山梨に帰っても就職する会社はどこにもないんだと言っているが、これはやはり問題だと思っている。やはり帰ってきてあの会社に入りたいという企業がなければ、山梨に連れてくるということは非常に難し

くなるのではないかなと思っている。

それとあと一つ感じたのは、先ほど誰かが仰っていたが、うちの妻の母も88歳まで運転していた。理由が、鰯沢という町に住んでいるということで、うちの妻も困っているが、やはり免許がなければどこへも行けない。一人で住んでいるので、88歳まで免許を持っていたが、88歳のときにうちの方に引き取って、免許を返上しろということで、本人の希望もあったので免許を返上させた。返上させてもどこかへ行くときにも困る。バスにしても、甲府市内に住んでいるが、甲府市内でもバスの便が非常に悪い。そういう交通網を何とかしてあげないと、お年寄りの方、非常に不便を感じるような生活になってしまうと思うので、そういうことを考えていただければと思っている。

それから、先ほどからインバウンドの話があったが、インバウンドはすごいが、今、泊まる場所が少ないので、何とか山梨県に泊まることを考えさせないといけないのではないかと考えている。

あと、リニア駅ができる予定地というのは、この中心から少し離れている。そこまで結構時間がかかる。そこまでの交通の手段を考えないと、これまでずっと甲府駅を中心に考えていた人間が、リニアにわざわざ乗るのかなと考えていると、本当に甲府駅のところから、リニア駅に移動する交通手段を考えてもらわないと、たぶんお年寄りは乗らなくなってしまうと思っている。そういうことを考えていただければ、少しでも快適になるのではないかと考えている。

(委員)

私の個人的な意見として、私は郡内の富士吉田に住んでいるが、国中、郡内地区の格差というようなことが、1年中、選挙になれば、そういう話がでる。今一番は、これまで郡内で一生懸命リニアを協力して作って、自分たちを犠牲にして作って、それがJRの意向で大津町に来ることになったが、それはそれで、その次の、駅の見えるところばかりでなく交通網の整備も、県でも考えていると思っているので、その辺の推進もしていただきたい。

私も中央会の方から見ていると、県の力が非常に落ちていると感じる。私ども中小企業の協同組合は430あったのが、今、組合員が340になっている。中央会に入っていない方もいるが、そういうところを見ても、いかにどうするか。自然の流れには逆らえないということだから、それはプラス思考で、量的なプラスでなくて、もっと現実を見て、その60万人に減る人口を、大体、今、80何万人だから、それを見据えた長期計画を立てるということが必要ではないかと思っている。そういう中で、今日、皆様がお話いただいたことはもっともだと思っているし、本当にこれは、皆さんの御意見を、やはり意見だけでなく、いつも会議はそうだが、これを県の皆さんはできるもの、できないものを具現化して、

そしてこの委員会に、これは少し無理だと、でもそれを長崎知事の任期が今年始まったから、この4年間でやって行きますよということを書いて、そして進めていかないと。どなたかおっしゃっていたけど、絵に描いた餅のようになってしまふから、是非今日の貴重な意見を具現化していただくことを、私のまとめとしてお話をさせていただいて、終わりにさせていただきたいと思っている。

(2) 議題2について、総合計画審議会の今後の日程を事務局から説明した。